



本校は、令和6年度にスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、世界トップレベルの科学技術人材の育成を目指した理数教育を推進しています。指定3年目となる今年度も、文理融合を特色とした課題解決型学習の実践を通して、生徒の科学的な関心と思考力の育成に取り組んでいます。

探究活動では、理系・文系を問わず科学的手法を重視し、根拠に基づいて課題を探究する力を育てています。このSSH NEWSでは、こうしたSSHの取組や生徒の活動の様子を定期的に紹介していきます。

## ぶんじの探究活動を通して、「国分寺コンピテンシー（BUN-petency）」を身に付けよう！

国分寺高校の探究活動を通して、ぶんじ生には「**国分寺コンピテンシー（<sup>ぶんじ</sup>BUN-petency）**」を身に付けてもらいたいと考えています。BUN-petencyは、次の5つの力を総称したものです。



### Broad perspective【越境】

文理を越境し、先入観にとらわれず、自分の探究活動をメタ認知できる力

- ◇ 人間・社会・自然・文化などの多様な視点から事象を捉え、論理的に考えることができる。
- ◇ 探究や学習活動の過程を振り返って、自身の思考や方法を調整・修正・改善することができる。



### Understanding【洞察】

自他の探究や取組を理解する力、また探究テーマに関連した様々なものを洞察する力

- ◇ 各教科における基礎・基本及び専門性のある知識や技能を活用して、事象の理解や探究活動に取り組むことができる。
- ◇ 具体的な体験や経験の中で、専門分野だけでなく、幅広い領域の知見を活用し、考察できる。



### Narrative ability【伝達】

様々な媒体において探究の過程や成果を多くの人へ物語るように伝達する力

- ◇ 目的や状況に応じて、文章・口頭・図表・作品・デジタル媒体など適切な形式を選び、構成を考え、表現することができる。
- ◇ 学習や探究で得た考察や成果を、根拠を示しながらわかりやすく伝達できる。



### Judgment【判断】

情報を適切に評価し、公平性や研究倫理を重んじて的確に判断し、決定する力

- ◇ 資料・データ・文章・作品などの情報を適切に扱い、論理的に考え、判断したり意思決定したりすることができる。
- ◇ 学習・探究活動におけるルールや倫理（著作権、引用、実験・調査の配慮など）について理解し、責任ある行動をとることができる。



### Integration【統合】

文理を融合し、様々な経験や知識を有機的につなげ、統合し、活用できる力

- ◇ 異なる領域の知識や視点を関連づけ、論理的・創造的に組み合わせて考察し、より深い理解や新たな見方を見出すことができる。
- ◇ 複数分野を統合し、よりよい解決策・表現・提案・価値創造につなげることができる。

これらの力は、総合探究や理数探究だけでなく、各教科の授業、学校行事、部活動など、日々の学校生活の中で少しずつ育まれていきます。一人一人が問いをもち、仲間と対話し、挑戦しながら成長していくことこそが、国分寺高校のSSHの原動力です。

今年度も、それぞれの「やってみたい」を大切にしながら、挑戦を積み重ねていきます。ぶんじSSHを、みんなで創り、ともに高め合いながら、さらに大きく発展させていきましょう！

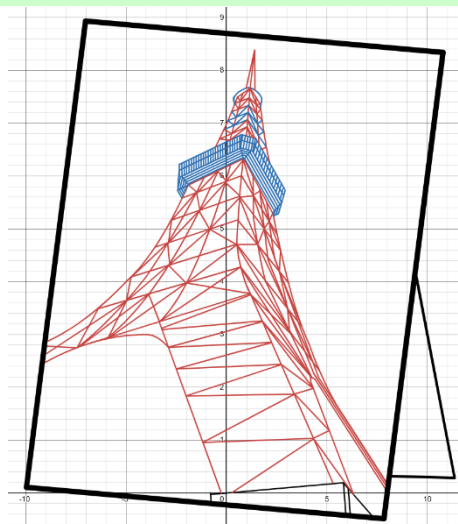


## 《アトリーチ》関数グラフアート全国コンテストで優良賞を受賞しました！

第22回(2025年度)関数グラフアート全国コンテストにおいて、2年(応募当時1年)の生徒が優良賞を受賞しました。関数グラフアートとは、関数のグラフや、数式で表される曲線を用いて作られたアート作品のことです。2004年度から福井工業高等専門学校主催でコンテストが実施されており、毎年全国各地から様々な作品が応募されています。国分寺高校としては初めての応募です！

### 《受賞した生徒の感想》

関数を使って、自分の思うような長さや角度、曲がり具合の線を描くのは難しかったです。しかし、その分、完成したときの達成感はとても大きかったです。数学をより身近に感じることができ、気軽に楽しめるものだと思います。



受賞した作品「東京タワー」

## 卒業生からのメッセージ

今年度は、卒業生から現役のぶんじ生に向けたメッセージを、不定期で掲載していきます。ぶんじの探究を支えてくれた先輩たちの思いや情熱をぜひ引き継ぎ、皆さん自身の探究をさらに広げていってもらえたらと思います。

### 小柳蒼太 (55期・北海道大学水産学部)

私は昔から生物に興味があり、捕まえた魚の胃の中からプラスチック片を見つけたことをきっかけにマイクロプラスチック(MPs)についての探究を始めました。しかし、高校で行えるMPsの検出方法が確立されていなかったため、使用器具や試薬の選定から行う必要があり、何度も失敗を繰り返しました。それでもあきらめずに試行錯誤を重ねたことで、満足のいく成果を出すことができました。また、探究活動を通じて、これまで漠然としていた自分の進みたい進路を見つけることもできました。

SSH校という環境は、多くの失敗をすることが許される貴重な環境です。思うような結果が出ないことが多くあると思いますが、結果に一喜一憂せず、成功に一步近づいたと前向きに捉え、粘り強く探究を続けてほしいです。



探究活動の一場面にて

### 川口葵子 (55期)

私が研究活動を通して感じたことは、身近なところから課題を見つけることの大切さです。部活動やこれまで自分が創意工夫してきた活動の中で研究テーマを探すと、自分の経験と結びついているため、意欲を持って取り組みやすくなります。また、国分寺高校には研究に取り組みやすい環境があり、頼りになる先生方がいます。研究を進める中で悩むこともありますが、一人で考え込まず、先生方に何度も質問や相談をすることで、新しい視点や解決のヒントが得られると思います。思いついたことはできるだけ早く行動に移すことも大切です。実際に動き出すことで、協力してくれる人が現れたり、必要な予算や支援を得られたりすることがあります。



探究活動で開発したレシピで作ったケーキ

皆さんが自分の興味や疑問を大切にしながら研究に挑戦してくれることを応援しています。